

海外高校との連携による課題研究

ドイツオットーハーンギムナジウム生徒とのフィールドワークと交流

日時	2018年10月9日(火)～13日(土)
場所	土浦一高, 土浦二高, 真鍋小学校
参加	オットーハーンギムナジウム教員生徒12名, 土浦一高教員生徒26名, 土浦二高教員生徒15名, 真鍋小学校教員生徒150名
目標	(1)合同でフィールドワークを行い, お互いの研究分野の意見交換を英語で行う。 (2)異文化に触れることで, 日本文化の良さを理解し, それを伝える姿勢を学ぶ。 (3)ホームステイを通じて, 生活習慣の違いを学び, 他人を受け入れる寛容さを学ぶ。
日程	9日 フィールドワーク実習(霞ヶ浦) 10日 土浦二高にて着付け体験 11日 真鍋小学校にて書道体験 12日 フィールドワーク実習(土浦市他) 13日 フィールドワーク実習(市内)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 国際的視野を広げる…A [根拠] フィールドワークを通じ, 異文化理解を深める様子がよく見られたから。 人間関係づくり…A [根拠] ホームステイを通じ, お互いに受け入れる姿勢ができたことが感想文に書いてあるから。 異年齢との交流…A [根拠] ドイツの生徒をアテンドしながら, 行事の運営を日本語と英語で分かりやすく説明している姿を, 小学校教員が評価していたから。

生徒感想	<p>・今回、初めて留学生の受け入れをしました。「英語教育にもなるし、楽しそう！」そんな私の軽い気持ちから、応募しました。我が家には娘一人と息子二人がいるので、受け入れは男女どちらでも可としましたが、一高に通っているのは息子だったため男の子が来るものと思っていました。しかし決まって迎えたのは女の子2人で、少し戸惑いましたが結果的には自分の娘のようで良かったと思っています。</p> <p>・気楽な気持ちで受け入れをしましたが、実際はコミュニケーションをとるのが大変でした。私自身はほとんど英語を話せず(息子曰く、サバイバルイングリッシュだそうです。)、子供たちを頼りにしていました。しかし実際には大学生の子供たちは時間的に顔をあまり合わすことが出来ず、通訳は弘也がほとんどすることになりました。逆に彼にとってはそれがとても良い勉強になったのではないかと思います。</p>
課題	<p>・一度にたくさんのをやろうとするあまり、内容が学校任せになってしまった。今後は、行事を精選し、学校としての方針を示してから、各学校との話し合いを持つとよい。</p> <p>・使用できる施設が限られており、プログラムの入れ替え等の工夫が必要である。</p>



合同で霞ヶ浦の水質調査